

来年度の服部商店の計画と昨今の木材の状況

木材も資源の一つです。価格が下がらないと思われていた石油・天然ガス・石炭・鉄鉱石の様な化石燃料と木材が全く違う要素が有ります。それは優良な循環型に近い森林を持つ国はアメリカとヨーロッパ以外に有りませんと言う事実です。

所謂南洋材と呼ばれるマレーシア・インドネシア産の木材、ブラジルを代表する南米材・アフリカ産材等の国から生産される木材は、違法伐採でなかったとしても循環型に近い資源では有りません。

又世界一の木材生産能力を持つロシアに関してはロシアの公的な機関が発表する資料によれば、赤松材を代表する針葉樹、タモ材を代表する広葉樹とも法的には全く問題はないと言われていますが、小生は多くの問題が有ると思います。

アメリカ材は10年に1回広葉樹の森林を全て調査しています。ヨーロッパの森林はアメリカ以上に管理されています。それに対してロシアの森林の管理は大雑把と聞いています。

ところで今年も発展途上国の中で安定した経済成長をしている国は、インドです。2000年以降高度経済成長を遂げていたBRICS（ブリックス）と呼ばれている国の中で唯一経済成長を維持しています。

そのインドは若年年齢人口比率が凄く高いのが特徴です。小生はここ数年以内にアメリカの森に木を買いに来るようにならざるを得ない状況が来ると噂を聞いています。

この噂の根拠を小生が大先輩に聞いたのは理由が有ります。今期アメリカの広葉樹の仕入と密接に関係があるからです。広葉樹の日本の全体のマーケットの事情も他のマーケットと同じように閉塞状況に有ります。

その閉塞状況の中でアメリカに買い付けに行く計画を立てる必要が有るからです。マーケットから見ると少し消極的な仕入をしたほうが良いのかを大先輩に聞きに出かけていたのですが、大先輩は明確な答はくれませんでした。ただ大先輩は20年位昔にインドローズの仕入に出かけていたのでインドの国民性等の諸事情に詳しいので小生にアドバイス（インドが中国に替わる日本のライバルに近い将来必ずなる）をくれたのです。

今期のアメリカの仕入計画を詳しく皆様に公言する事は企業秘密も有り、出来ませんが昨年比10%アップの量を確保しようと計画しています。昨年の10月から今年の9月までの営業成績は昨年より良かったです。営業成績に貢献したのは必ずしもアメリカ広葉樹だけでは有りませんが、日本の森林の状況、世界の森林の状況、ライバルの手持ち在庫の状況等を総合して判断しました。

大変な北海道の災害状況

右の写真は9月17日に北海道沙流郡日高町を流れる沙流川の状況です。過去に無かった水害と地元の方は仰っていました。この場所から東へ10キロほどの位置に日勝峠が有るのですがこの現場に比較できない状況で元通りの峠にするのに5年以上歳月が必要ではないかとも話されていました。

北海道の背骨の日高山脈の東半分集中して被害が出ているのですが、大雨は北海道全体に降っているとの事で今年の北海道の広葉樹生産数量は確実に去年以下になると思いますのでアメリカの仕入数量10%以上の増量は他の諸事情を鑑みても間違っていない数字だと思います。

今回の北海道の大水害で多くの方が亡くなり、家、土地を流されています。1日でも速い復旧・復興が実現できますように切に望みます。



長野県の森林

今年1年間長野県と言う県名は、例年以上に耳に入ってきた年だと思います。NHKの大河ドラマ真田丸にて徳川・豊臣・上杉等の権力者が国を運営していくうえで凄く大事な位置づけをしていたのが信州、今の長野県です。ドラマでは木の名前（樹種名）は全く触れられていませんが、木曽ヒノキ・サワラ・ネズコ・アスナロ・コウヤマキが木曽五木（木曽を代表する五つの木）と呼ばれています。

小生は大学卒業後22歳から25歳の3年間で愛知県の材木屋で修業をしていました。その時木曽ヒノキと木曽サワラは上司が商いをしていたので5種類の中で特に2種類は日本最高の木だと言う事を覚えています。10月14日に小生は58歳になるので36年間も昔の事です。2種類の樹種の肌触り等の事まで脳理に刻まれています。

木曽の森林も北海道と同様過伐採の為に深くキズが着いている事は、現在保護林に指定されている赤沢自然休養林を見に行けば有る程度の知識が有ればすぐ解ります。

伊勢神宮の御神木の伐採現場の一つが赤沢自然休養林ですが、昭和60年伐採された跡を見て来ましたが、凄く立派な木曽ヒノキが有ったと言うような株跡ではないように小生には見えました。

木曽ヒノキ全体を赤沢の極一部の森だけを見て判断するのを、皆さんは正しい行為だと思われなくても知れませんが、小生の経験から見れば、大体解ります。



赤沢自然休養林の入り口の看板



何故か凄く根が浮いています。



研究がおこなわれていると言う証拠の看板



天然林と言うものの針葉樹は広葉樹と比較すると根が浅いと思われます。根が浮いているのを見て頂ければ解ると思います。

又保護されているとは言え300年生位の木がわずかに育つ高齢木で有ってそれ以上の木は少ない様な表示が有りました。この事から日本の林業政策は大失敗をしてしまった様に思えました。300年・400年・500年以上と言う様に年代別の大木が有る事により森自身の生態系が織りなす自然

が森林全体の恵みになり、治水等のことで人間たちの恵みに繋がるのです。

9月の北海道

9月16日に今期の広葉樹市のオープニング市、第398回広葉樹銘木市が開催されますが、何となく活気の少ない感じ(市に参加している買い方は昨年と同市に比較して20%少ない)がしました。8月末に北海道の1社の材木屋が倒産しましたがその影響ではなく小生の感じでは何となく続く閉塞状況みたいな物を感じました。昨年より少ない出品量(460M3)では有りましたが、この数字は今の荷動きから見ると不思議に有っている結果(原木の品質は低いが価格も安い)だったと思います。

日本経済全体は来年から始まるオリンピックの本格的工事が有ります。本来は出品数量が少ない事は単価の上昇に繋がるのですが、極一部の物件(無垢材を豊富に使える高級物件)を除くと恐らく無垢材を使わない現場(ツキイタも使わないシート貼りの建材が主力)が主体になるのではと思います。東日本大震災・熊本地震・北海道の今回の災害等人手を多く必要な現場が日本中に有ります。そんな中オリンピックの工事が始まるのです。そうすると技術者・熟練の職人不足は慢性化して工事代金の上昇は避けられません。しかし総金額の多大な上昇を避けたいと工事業者は考えるはずで。そうするとシート貼りの建材が主体になる事は誰が考えても間違いないと思います。



山の季節は確実に進んでいます。

右の写真は北海道の鶴川の上流です。少し解りにくいですが紅葉が始まりかけていました。大阪の気温は25度以上有りますが、この写真を撮影した朝の気温は10度位でした。

下の写真は東京大学演習林の入り口の看板です。小生はこの看板の前を数えられないくらい通っていますが、残念ながら真冬に通っていますので、看板は雪の中に埋もれています。夏場に通ったのは初めてでしたので物珍しく思い撮影してきました。道路から見える地域は極狭いエリアですが、小生の経験から言うと東京大学の演習林等の極一部のエリアしか優良な広葉樹はないと思います。

この看板の前の広葉樹林はまだ紅葉は進んでいませんでした。

現在の北海道の森林は生産数量を極めて厳格に削減しています。そうする事で将来の広葉樹生産が循環型になります。まだまだ長い時間が掛かるとは思います、50年から100年すると健全な森林に戻るとは思います。

その時には過去の間違った政策『森林経営と称して生長の遅い広葉樹を伐採し生長の早い針葉樹を植林した』に戻らないようにする事が日本人全員の幸せに繋がると思います。

